

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「しあわせになる」という理念があり、各利用者様の思いをもとに地域での生活を支えている。		利用者様、家族よりここでの生活でよかったと思って頂けるようにしていく。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	見やすい所に運営理念を掲示してあり、カンファや申し送りで話し合い理念をもとに日々のケアに取り組んでいる。		職員は朝の申し送り時に理念を黙読し、仕事に臨みスキルアップしていきたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議を通して出席の方々には、理念と役割については説明している。		地域向け広報を利用し、事業所の実践を伝え理解して頂けるよう取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩やゴミ出しの時挨拶を交わし、立ち話などは積極的に行っているが来て頂くまでにはなっていない。		地域の方と利用者様を交えたお茶会を開催し、交流の機会を作っていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りや盆踊り等には利用者様とともに参加している。又、地域活動への参加や情報収集にも努め、交流の機会を持つようにしている。		今後も地域の行事に参加し、地域住民の一員としての役割を担っていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方からの相談に応じながら、他機関への紹介や事業所として出来る事は取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で自己評価の意義を理解し、取り組んでいる。又、結果については全体会議で改善に向けての話し合いをしている。		改善内容については計画を立て取り組んでいき、全体会議を利用し、職員の考えも取り入れていく。
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて自己評価、外部評価の取り組みと結果報告をしており、意見は真摯に受け止めサービス向上に役立てている。		運営推進会議に色々な方に参加して頂けるよう議案を考えていきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者には運営上の質問や取り組みについて、ご協力頂きながら質の向上に取り組んでいる。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は、成年後見制度や地域権利擁護事業についての勉強は不十分である。		成年後見制度や地域権利擁護事業についての研修参加と勉強会を行なっていきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については抑制廃止委員会を中心に、具体的に話し合い取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結と解約についての説明は十分行なっている。又、不安な点や必要とする時は話し合いを持って理解を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からの意見や不満等がある時は話を十分に聴き、管理者・職員は情報の共有をし、運営の参考としている。		利用者様の要望や意見を引き出せるように意図のあった会話の機会を多く作っていく。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会、電話時や月に1回のお便りに最近の様子を報告している。行事の写真はユニット内に掲載し、見て頂いている。		広報に職員紹介や発行回数を増やし、利用者様の普段の暮らしぶりを伝えていきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各階に意見箱を置き、意見、不満、苦情が表せるようにしている。又、外部の相談機会等の情報提供は契約時に説明している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス、全体会議や個人面談にて職員から聴くようにしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	通院や行事はもとより、必要とする時は勤務変更し、人員確保を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者・職員は固定しており、利用者様のダメージを防いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修へは段階に応じ参加しており、研修報告書も提出されているが、内部での発表が十分にされていない。		研修内容のアンケートをとり、外部から講師を招いたりし、研修の充実を図っていく。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市全体・同地区の管理者会議があり、その都度出席し、ネットワーク作りや勉強会などを通じてサービスの質に取り組んでいる。		同地区の管理者会議で、交流の機会等の取り組みが検討されている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は管理者・職員のストレスや悩みを把握することに努め、話しや面談により軽減するよう工夫している。		親睦会を開き、職員同士で悩み・ストレスの解消となるようにしている。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は資格取得のバックアップと研修参加の機会を設け、向上心を持って働けるようにしている。		話しや意見をもとに、考えた事を実行にうつせる様に又結果、問題点がなかったのか常に考え話し合いのできる環境づくりをしていく。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談で本人から不安や困っている事、要望など良く聴き信頼関係作りに努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時より家族が不安な事や求めている事など聴き、事業所として対応出来る範囲について説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談者の話を聴いた上で、早期の受け入れ対応や他事業所の紹介を行っている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人・家族には事業所見学をして頂き、お試し利用等も対応している。本人のペースでゆっくりと馴染めるよう家族等の協力も得ながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方的に介護することなく、一緒に出来ることを行ない、利用者様から教えて頂きながら関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族へは細かい報告と共に、お祝などには参加して頂き、共に支え合っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ホームで落ち着いて暮らす事により、家族の面会や行事の参加など関係の継続に支援している。		利用者様と家族の共有の時間が持てるよう、行事内容を見直していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お墓参りや親戚宅へ伺う事や、逆に訪問しやすいように交流の支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係は把握しており、調整役となって支え合えるように努めている。		他階との利用者同士の関わり合いの機会がもてるよう物作りなど行っていく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居した後もお見舞いや訪問する機会を持ち、移転先の相談員の方からも情報を頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の対話の中から本人の希望や意向を聴き、沿えるよう努めている。又、自分の意志が表しづらい方には生活歴をもとに聴き出している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の所より情報提供して頂き、本人や家族からも聴き、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	各利用者様の1日の過ごし方や能力は把握しており、その方に合った暮らしが出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各利用者の思いや意見をお聴きし、反映された介護計画書を作成している。		定期的に家族にアンケート調査も行ない、よりよい介護計画書作りを取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヵ月毎の見直しと状態の変化・介護度の変更等あった時は適時見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日々の様子や変化に気付いた事は個々のケース記録に記載し、介護計画書見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所として出来る範囲内において柔軟に対応し、利用者様や家族の要望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防、民生委員などの協力を得ながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他サービスを利用できる事は利用者様や家族には話している。地域の訪問理美容サービスを月2回希望や体調に合わせ、利用出来るよう支援している。		デイケア・デイサービスを希望する時は支援の体制がある。
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり、相談がしやすく必要時の情報交換は行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居時にかかりつけ医については本人・家族と相談の上決めている。協力医療機関の住診も受け、健康管理を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医療機関は把握しており、担当医に相談の上家族とも話し合い、受診機関を決め支援している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所に看護職の配置はないが、協力医療機関の看護師又は、かかりつけ医の看護師に相談している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した時には本人の情報提供とホームで対応出来る状態については担当医に報告し、早期退院に向けての連携を行なっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	かかりつけ医の診断のもと、早い段階から関係者・家族等とは話し合い、全員で方針を共有している。		運営者と重度化、終末期については話し合いを重ね、段階的に取り組むことにしている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期については事業所として出来る事は、かかりつけ医と共に取り組んでいる。		全職員のスキルアップを図り、利用者様・家族に安心した状態で取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>移転先へは本人のこだわりも含め情報提供をし、住替えによるダメージを最小限になるようにしている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者様一人ひとりの人権を尊重し、言葉掛けや情報の取扱いにも十分注意している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者様がわかりやすい言葉で説明し、写真や現物を使い自己決定が出来るようにしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者様の希望やペースを大切にしているが、業務が優先した対応をしていることがある。</p>		<p>利用者様の希望やペースに添い、気持ちに配慮した対応をしていけるよう職員間で話し合い調整を行っていく。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>各利用者様の好みによって身だしなみがされており、理美容は月2回の訪問理美容師により希望に添うようにしている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>一緒に野菜の下準備や盛り付け、食器拭き等を行ない、状態によっては食べやすいように刻み、楽しんで頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好を把握しており、本人の体調に合わせ、おやつ・飲み物等の調節を行ないながら楽しめるようにしている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間誘導やトイレでの排泄に向けての支援を行っている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に添うようにしているが、体調・血圧によっては入浴日や時間を決めてしまう事がある。		体調・血圧の変化を把握し、利用者様の意向に合うように努めていく。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	休息や入床は各利用者様が決めており、安心して気持ちよく眠れるよう温・湿度に気配りし対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活層や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者様が負担とならない役割り(料理の下準備・盛り付・縫い物など)や楽しみ事(花札・トランプ)を探り支援していきたい。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力に応じてお金を持ったり、使えるようにしている。家族の希望により所持出来ない場合は、支払の時手渡すようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調や天気などを見て買い物や散歩等の希望に添うようにしているが、職員の配置によっては対応出来ない事もある。		職員の配置の見直しと、ボランティアの活用により外出の機会を作っていく。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	墓参り、姉妹宅(市内・市外)など家族と相談しながら計画を立て支援している。		事業所として泊まりの行事はしたことがなく、利用者様の体調を踏まえ、家族と協働しながら前向きに考えてみたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を希望する時や家族の事を心配している時は、職員が取り次ぎ、お話ししやすいように手助けしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限は定めておらず、自由に来て頂けるようにしている。訪問時はお茶等を出し、過ごしやすいように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者・全職員は身体拘束の禁止事項について理解しており、拘束しない介護をもとに実践している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニット出入扉より出る時は声掛けや話を聴いて、同行したり落ち着くまでの対応をしている。夜間のみ防犯の為、玄関とユニット出入扉は施錠している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者様の行動をさりげなく把握しながら記録を書き、居室で過ごされている方や夜間は定期的に確認を行ない安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者様に合わせ刃物、カミソリ、はさみ、針等を持っており、危険と思われる時は家族にも相談して対応を決めている。		利用者様の状態を見極め、状況変化に即した対応をしていきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書・ヒヤリハットをもとに、事故防止対策委員会にて話し合うほか、各ユニットでも申し送りやカンファレンス時に防止策を話し合っている。		
70	急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急時のマニュアルのほか、救命講習を年2回実施予定しており、全職員が対応出来るようにしている。		急変の対応には不安があるので、細分化した勉強会を行なっていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議にて町内会の方への働きかけと、地域防災訓練の参加により関係を築くよう努めている。		防災グッズを徐々に取り揃えたり、防災訓練の実施と避難経路の確保と見直しを、消防署の協力を得ながら運営者と進めていきたい。
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者様の自由な行動により予想される危険については、家族に十分説明し同意を得てからの対応としている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者様の顔色、声、様子等に变化がある時はバイタルチェックを行ない、記録すると共に申し送り等で情報の共有を図っている。		気温の変化や感染の流行情報を収集し、先手の対応をとっていきたい。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の目的、用法、副作用等については説明書にて把握に努め、きちんと服用するまで確認をとっている。用量の変化があった時はバイタルチェックの回数を増やし、結果を担当医に報告している。		薬剤師を招いて、副作用の勉強会を行なっていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘が及ぼす影響を理解しており、食べ物(繊維質)や運動・腹部マッサージなどで工夫し、下剤を減らすように取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝・就寝前の口腔ケアについては、見守りと一部介助にて行なっている。		昼食後の口腔ケアが十分されていないので、見守り又は一部介助にて実施していきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立表は管理栄養士にて作られ、相談にも応じてもらっている。食べた量や水分量についてはチェック表に記録し状態把握をしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、毎日の掃除と手洗いの励行など必要に応じての取り決めがあり、予防と対策に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎食後、まな板・布巾・包丁の消毒を行ない、冷蔵庫と食材の点検も毎日しており食中毒の予防に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前には花やベンチなどを置き、親しみやすい雰囲気作りをしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間には季節の物を飾ったり、光などはカーテンにて調整し過ごしやすいように工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用空間が狭く一人ひとりになれる所は居室しかないが、気の合った利用者様同士で会話などはされている。</p>		<p>1階部分を活用しスペース作りをしていき、思い思いに過ごせるような場所作りをしていく。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた家具などを持ち込んで頂き、本人が過ごしやすい部屋作りとなっている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>清掃時は換気を行ない、各居室には温・湿度計があり利用者様の様子を見て、昼・夜でストーブの温度調整を行っている。</p>		<p>乾燥が気になる時は、濡れバスタオルを掛けたり工夫している。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の身体機能が活かせるよう必要な箇所には手摺りが設置しており、安全に生活ができるよう家具配置など工夫している。		段差(大・小)がありスロープや踏み台にて解消しているが、危険なため見守りや一部介助を徹底していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの機能や力に応じたさりげない介入や目印によって、不安のない生活を送れるようにしている。		
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	今年は裏の畑を活用出来なかったが、プランターの苗植えや花は楽しんで頂いている。		作物が収穫できるよう畑の手入れから利用者様と一緒に行っていき、収穫を喜び合いたい。

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者の古里(旭川など)お墓参りや姉妹宅にお連れしています。  
 家族様と一緒に墓参りが出来るようにお手伝いしたり、レクや行事に全員参加出来るよう工夫し、共に笑い楽しめるようにしている。